



スナックスタンド

YANAGASE

生田区三本松不動坂上り口 TEL・29-0715

スナックバーの本格派である。マスターの柳ヶ瀬康治さんは日本バーテンダー協会連合会の神戸支部長。テラスのついた玄関のらせん階段、重い扉を押して中に入るとまず目につく中央の「だんろ」、右手にいきな洋酒棚とゆったりしたカウンターなど店内の装飾はすべて黒のトーンで統一されている。なかでも入口にあるくさりらしき柳ヶ瀬さん自らの手でいぶし焼きにしたという力作で、赤々ともえるだんろの火がロマンチックな気分を味あわせてくれる。レンガを敷きつめた床と店内のムードにあわせて描いてもらったという小松益喜さんや井上寛造さんの絵がよりいっそう楽しい。店のメンバーはマスターのほか奥さんの美智子さん、会計の女性と腕のいいコックさんと四人。ゆったりと静かなふんいきに神戸らしいムードの店だ。ステッキ、スバゲティはかビール(300円)ハイボール(300円) 営業時間PM6・00～AM1・00



履物の店

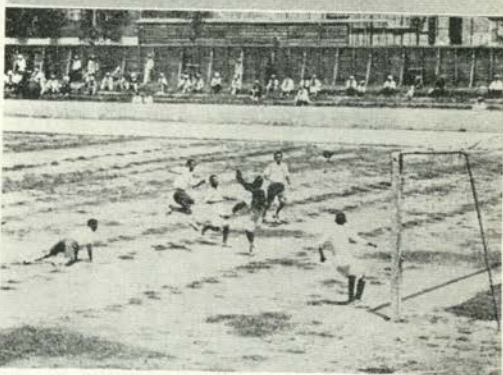
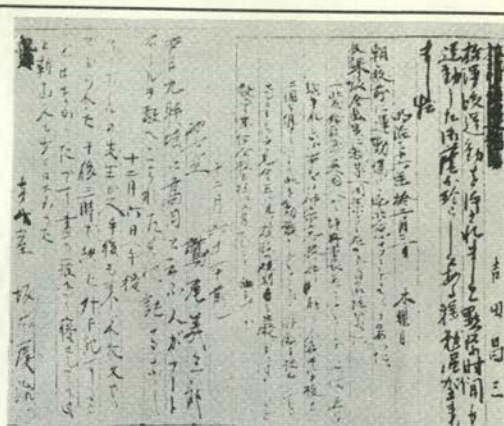
山下履物店

センター街・大洋劇場前 TEL・39-0256

三宮センター街、大洋劇場の向い側に、八山下履物店がある。創業は明治二十五年というから「はきだおれ」の神戸の中でも、老舗の店。主人の山下良造さんが、「お客さんの身になって仕入れる」というだけあって、一、二、中二階の店内には、ゲタや草履が、いつのシーズンでも品数豊富に、ズラリと並んでいる。材料も手軽なビニール製のものから、皮革製、織地、ビーズなどさまざま。デザインも、ローケツ染、佐賀錦など独特のものがある。ともかく、このお店に来れば、たくさん種類のの中から、自分の好きなものを、自由に選べるのがなにより。

上手に着こなした女性の和服姿は、いつ見てもいいもの。ところが、洋装の感覚に慣れた現代っ子にとっては、和装の場合の履物の選び方は案外むづかしいようだ。せっかく買い揃えるからには、自分の着物にしっかりと合ったものを求めたいものである。

神戸遊戯誌 41



写真上は明治36年3月の神戸中学校寄宿舎当番日誌
写真下は昭和10年8月7日神戸市民運動場の第17回全国中等学校
選手権大会兵庫予選でくろひろげられる熱戦

＊御影師、神一中の両雄

兵庫県が全国サッカー界のために尽くした功績はまことに大きい。とくに創始期に果たされた御影師範、神戸一中両校の功績は抜群だった。「サッカー・ブーム」といわれる今日を迎えて、サッカー・ファンにとっては、両校チームの輝かしい球歴が今さら新しい感動をもって思い返されるに相違ない。

ところで、サッカーの歴史を調べてみると、ヨーロッパで競技として認められたのは一三一四年（鎌倉時代）というから、ずいぶん古くから始められたわけだ。わが国への輸入はむろん明治以後だが、最初は外人しかやっていなかった。神戸外人クラブ（KRAC）のサッカー・チームと横浜外人チームとの定期試合が早くから毎年三月行なわれていたが、年々よい選手が外国から渡来して加わるようになったため、しだいに実力が向上した。日本人がサッカーをやり出した最初の動機はなんといっても、これらに在留外人選手の活躍ぶりにあったことはい

うまでもない。

昨年六月刊行された「ボールを蹴って五十年」（神中サッカー・クラブ刊）によると、日本サッカー界の名門神戸一中（現神戸高校）がサッカーをまがりなりにも始めたのは、同校創立の明治二十九年となっているから、実際はボールを蹴り出してからじつに七十年ほどにもなるわけだ。同書には明治時代のサッカーの発祥の様子がいろいろと記載されているが、その二、三を拾うと「校友会誌第二号」から記事引用として、明治二十九年九月「当時創設間もなき野球会（明治二十九年六月誕生約五十名）の盛んな活躍を校友の一部に嫉むものありて面（ツラ）当てに蹴鞠会とてフットボールを始める者あるに至りき」とあり、また、明治三十六年の「寄宿舎当番日誌」よりとして、十二月三日「朝飯前に運動場で南北寮のフットボールマッチがあった」とか、同月六日「本日九時頃に高田という人がフットボールを教えるにこられた。その他記事なし」とか書かれている。面白いのは、サッ

サ ッ カ ー ①

青木重雄

カーの名称が当時は蹴鞠とかフットボールとか呼ばれていることだが、その後大正二年ごろになると「ランゲリ（乱蹴り）」という遊び方が生徒たちの間に登場している。つづいてア式フットボール（アソシエーション・フットボールのこと）になり、ア式蹴球に変わり、さらに蹴球から今日のサッカーに変わったわけだ。同当番日誌の中に、「この度ロンドンのある英国人から坪野市長あてにフットボール六個送り越されしかば市長は神戸市の各校に寄贈せられわが中学校も二個を得しにより、これを動機としてフットボール遊戯を校内に普及せむとするに当たり、云々」とあるのも、当時の模様がしのばれて興味深い。

このように、神戸一中のサッカーの歴史は古いわけだが、蹴鞠会というようなクラシックな感じのものから脱皮して、名実共にサッカーチームとしての実体を備えた神戸一中蹴球部が生田河畔に生まれたのは大正二年のことである。この間の経緯を「神戸一中蹴球史」（昭和十二年）にだいたい次のように書いている。「神中学校庭にホイッスルの音高らかに響き渡り始めたのは大正二年でこの年蹴球部が創立された。それまでは毎年冬になると昼休の時間に二ツ三ツのボールが、運動場に持ち出される。それを全校の生徒が追っ馳け奪い合っていたに過ぎない。これを当時ランゲリと称していた。その時分に広島高師で蹴球部の選手であった岩田久吉先生が卒業してこられ、始めてルールを教えられチームを編成というより取り敢えず十一人の頭数を揃えて正式の練習に取りかかったのである。そこへ一層拍車をかけたのが英国人のアーガル先生である。……」

一方神戸一中と並んで、早くからサッカーを始め、その後県下、いな全国サッカー界に両雄の名をほいままにしたばかりか、全国大会（全国フットボール選手権大会）と全国中等学校蹴球大会を通じて、に最多の制覇レコードという金字塔を打ちたたてたのは御影師範である。今

神戸一中ほどの古い資料がないため、同師範の歴史をくわしく知ることができないのは遺憾だが、「全国高校サッカー四十年史」（毎日新聞・昭和三十七年刊）には、「御影師範のア式蹴球部は明治二十九年の創設、歴史の古きこと関西第一にして、明治四十五年志義主将時代に長足の発達をなし、斯界の大会にはしばしば優勝し、陸上、庭球とともに、関西運動界の權威なり」と書かれている。明治二十九年というと、神戸一中生がサッカーのボールをさわり出した時と全く同じだから、おそらく両校のスタートは同じ頃だったと考えられてよからう。ただ、師範の生徒は中学校生よりも二歳年令が上だし、従って肉体が成長していた上に、将来先生になるものばかりだったから、一中生よりはサッカーの進歩と組織力も時期的に早かったのではないだろうか。その証拠に、大正七年度から始まった大毎主催の全国フットボール選手権大会（七回目から全国中等学校蹴球大会）に優勝したのを皮切りに大正十三年度まで連続七回優勝の輝かしい記録を成しとげたのは御影師範だったし、この覇業を食い止めんとしてライバルの神戸一中がいかにか苦心し、血のにじむような練習によってショート・パス戦法を身につけたか、が歴然とした記録の上の事実として思い返されるからである。たしかに、この二歳の年令差は大きかった。だから当時は御影師範だけでなく、天王寺、京都池田、姫路の各師範学校のチームがいずれも強く、大会での優勝候補となっていた。そのなかの最強校の御影師範を大正十四年に初めて破って優勝したのが神戸一中だから、その満足と感激ぶりがやけだし想像以上のものがあつたに相違ない。

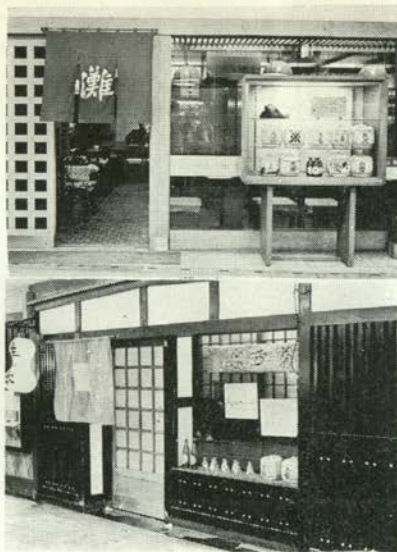
（四一・一二・二四記）

〔附記〕本シリーズの今日までの連載種目は、ゴルフ、ビリヤード、ヨット、硬式テニス、軟式テニス、登山馬術、スケート、アーチェリー、水泳、卓球、ダンスの順でした。なお、本シリーズ中の文章を長く引用される場合は、すみませんが、神戸っ子「神戸遊戯誌」より引用と附記のほどお願いします。

神戸うまいもん巡礼

No.53

赤尾兜子



酒房の巻

いじへな な さ か
古の七の賢しき人どもも欲りせしものは酒にしあるら
し 大伴家持

むかし酒といえば、濁酒であった。いまは清酒である。
日本の酒どころ灘の生一本の味が、摂津播州産のいい米
と六甲山系から流れ出る宮水におうことは、すでにテレ
ビのCMにまで乗っている。

その灘の清酒をきさくに飲ます店が神戸にはあるべき
である。

といって、神戸へきた左冗に無条件にすすめられる店
の、割にすくないのがいままでであった。

さんちかタウンの「灘」は、開店一年あまりだが、す
でになじみ客がつき、オープンなのが、警戒心をときは

ぐしたらしく、外人や婦人客も足を入れている。
神戸にぜひ灘の生一本を飲ませる店がいる—神戸市の
当局者が考えた。ところが銘柄が多いので市みずからそ
れを指定できない。そこを兵庫酒類食品にうまくまかせ
て、この店が誕生したのである。

酒の銘柄は、白鶴、忠勇、沢之鶴、白鹿、大関、菊正
宗、日本盛、月桂冠、白雪の九種で、すべて一級のビン
詰め（百八十ミリリットル）で一本百二十円。特級酒や
もっと多くの銘柄もおきたいが、サラリーマンのポケッ
トマネーで飲める安直な値段と、これ以上種類をふやす
とややこしく、酒のカンに手が回らぬからだという。

支配人は、この店をするまでは堅気のサラリーマン、
酒の相手になるおでんなどを仕込む板前さんや店員は女
性ばかりで、十八人。

「ツル」「シカ」「キタ」「ユキ」…、店へ入ってカ
ウンターにすわるや、この一声で酒を注文するのは、左
党として年季の入った通である。このわた、たいの子、
生うに、湯どうふといった小鉢物もあり、しろうとから
はじめたにしては、二十あまりのタネを入れたおでんの
味も、薄味手ごろにできているので、楽しい。

ハダカ電球に竹製のカサ、カベにタタミ表をはった店
のデザインは民芸調としては異色。定員六十人。むかし
の、「大衆酒場」というイメージよりは上品である。店
がつなぎに試みている昼の定食一三〇円（天ぷら・おで
ん・粕汁）は、味と値に目ざといB Gで大繁昌である。

開店いらい十年、かなり年季の入った「生一本」（国
鉄三宮駅地下秀味街）は、「灘」よりすこし高級の酒亭

といえよう。もと花隈で左様(つま)をとった女将の経営だけに、店のフンキが艶っぽく、日本趣味で、柱は黒一色、中年層に好まれる構えと造りである。

はじめは、灘酒のいろんな銘柄をおいていたが、いまは菊正宗一本にしぼっている。ビン詰め(百八ミリリットル)特級で一本百六十円。ビン詰めを飲ませた店の神戸ではしりでもあった。

この店も、女性ばかり、和装である。やはり酒の相手は女性に限るということか。

すこし辛口のおでんのいろいろ、それに黒板にその日



の品書きが記されてある。はまち、生うに、はまぐり、たいの子、きも、砂ずり、ぎんなん、かきす、なまこ……といったふうに。

三十人でいっぱいのお店。サーブスにつとめる女性が八人ばかりもいて、その数が多いだけに、酒ブラスアルファの(といって料亭とはちがう)気分をもうくらかおぎなっているのであらう。

客は総じて中年層、そして名士もかなりいる。酒三本とおでん一人前で一〇〇〇円というところ。



灘の生一本を豊富に取揃えた「灘」。(写真上)と日本情緒あふれる「生一本」。(写真下)。

淑女入門 2 How to be a Lady

ドリンキング淑女

文——鴨居羊子
え——石阪春生



とある小さきバーで酒を飲んでみると、大いの場合そのカウンターのとまり木にとまった客たちは何となく同じムードの中で、友だちのようなそでないような、つかずはなれずの和やかさにつつまれる。話しの工合では端と端の人が意気投合もするし、といっても顔見知りでも、チラと笑い合っただけでマイペースで各々飲むといった調子なのは、男の酒飲みなら常識である。

ところがある日、あるバーで、何とも耳ざわりで気ざわりでおちつかぬムードにつつまれたのに、私も二三の人も気がつきだした。さきほどから一隅でクシャクシャクシャラとしやべりつづけるマダムと紳士の二人連れからかもしだすムードのせいである。何をしゃべったってかまわぬ自由なバーではあるが、どうもこの話しの内容は、マダムのこみいった打ち明け話であり、紳士はただひたすらに聞き役であった。打ち明け話をしてはならぬという規則もないが、この「女性特有の現実的な悩み話」というのは不思議な楽屋裏の雰囲気になるのである。一種の「所帯くさい現実臭」をかかすのである。所帯をもっていないくても所帯くさい人というのは小

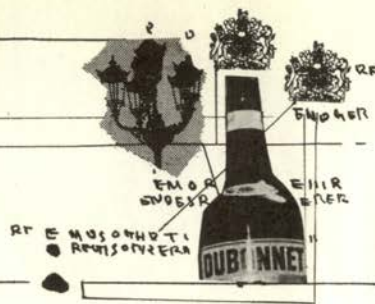
学生にもいれば、BGにもいる。このマダムはあとで聞くとバリバリと働いている美容師さんであったが、その口調、その内容、その話のムードはまさに所帯くさい現実、面白くもない茶の間、ひからびた漬物、残り少ないガマロの身、井戸端会議、家計簿、女の気にする顔のシワ、たるんだヒフ、家でイライラ待っている女房族、etcといったおもしろくないことばかりを思いおこさせる所帯ムードなのである。

多分、誰かにふられてフンガイしているようなややこしい話がリアルに語られていた。このマダムに限らず酒を飲む場所での女性の所帯臭の違和感とはしばしば出てくる筈である。

この違和感を並べる男たちは敏感にもかぎとったが、彼女が帰ったあとは、ふたたび正常なおどけたムードにたち直った。

男という動物は、一たん夜になれば、昼間の顔つきをガラリと変え、一たび酒場の扉を押せば別の役者気取りになりすますのである。道化にもなれば、英雄にもなる。つい先ほど観た西部劇の殺し屋気取りで、ボンと銅貨をたたきつけてもみる。酒場の主人も部屋も巧みにそれを受けとめて今宵一夜の演技がくりひろげられる。この酒の演技こそ男の腹の中の無数の引き出しからアレコレとりだされ、そしてしまいこまれるエネルギー源である。一つ位しかない引き出しをガッポリさらけだすのはバカな女のくせである。

同じ所帯くさい話を男たちは次のように表現する。



「オレはひょっとして宝くじが当たらないでしょうと思つて真剣に考える。そうや、小学校の先生に恩になったから、まず喜ぶものを買つてやらないかん。隣のオヤジが宝くじ気狂いときてるからどうせバレルから何か口止め料をやる。それから一つと、アレコレアレコレ、ジョーモナイ知人友人の顔がものほしげにみな浮かんできよつてな。しんどう一なるがな。そうや、女房のハンドバッグと……てなことを地下鉄から上つて家までの五分の間に考えるわけや。毎日の。そのくせ買った札の番号をしらべたタメシがない

のはなんでやろ?……」ガボリーとここで酒を飲む。

さて淑女大いに酒を飲むべし、ただし演技忘るべからずということとを女性の愛酒家に言いたい。愛される女の酒飲みになるための演技項目を以下にまとめてみる。

淑女たるもの大いに酒を愛すべし。酒が嫌いでも、嫌いなフリをしてはいけない。一たん、男性と、または女性の連れと、酒場のドアを押せば、役者に変貌せねばいけない。なぜなら「酒」というのは人間の演技の所産なのである。そして酒場には酒場のルールがある。そのルールを乱すようでは淑女になれない。空気のような演技をまず身につけるべし。「酔う」といういじらしい人間行為を否定してはならぬ。喜んで酔いしれるがいい。そのバーのトマリ木にとまって「飲めないの」などという位ならその場所へこぬがいい。たとえタンサンでも飲んで、うっとりせぬといけない。ただし、淑女は酒に溺れて乱れてはいけない。クダをまき、男にくつてかかりアバレルのは興ざめ、目でもまわしてにんまり笑うにとどめてくずれてはいけない。

淑女の酒のたしなみ五ヶ条

「定」

- 一、止むをえざる理由のなき限り、亭主のことを話題にすべからず
- 二、子供のことも右に同じ
- 三、年令を忘れてはいるフリをし、すべて年少者は背のびせよ。年長者は子供っぽくすべし
- 四、家庭での食生活のことを話題にすべからず
- 五、出来得る限り男と同じものをたしなむべし



★県美術館の建設予定地 須磨離宮公園内に

県下にひとつもない県立美術館を建設することは、県下の美術愛好家の長年の念願になっていたが、このほど、この建設計画が具体化し、県立美術館建設委員会（阪本勝委員長）第五回会合の結果、この予定地を同市須磨区東須磨の離宮公園内とすることに決めた。

同美術館は、地上三階、地下一階延べ八千一万平方米の予定で、美術館としては、東京都美術館に次ぐ規模のものとなる。

本年七月までに基本設計をつくり、九月県議会で予算化し、今年中に着工、総工費約十億円で二・三年計画で建設する。同美術館は近代、現代美術の展示を主目的とし、常設の美術展示場と、個展やグループ展など一般への貸画廊を設ける。また資料室、小講堂、野外展示場なども設ける。

所在地が、市の中心地とはかなり遠い閑静なところなので、地理的な面で、多

少の問題を残し、識者や一般の人から、多少の苦情もでてくるようです。しかしいつても好きな時に、気軽に行って、しかも安く鑑賞できる美術館ならば、一日も早く完成してほしいもの。

★神戸開港百年祭の スケジュールが決定 五月に記念式典

今年、開港百年目を迎える神戸市では、神戸開港百年祭の記念式典を五月に行うことに決定した。その式



ロッテルダム港・外務省周辺

典では、シアトル、ロッテルダム両港との姉妹港提携式がある。また、記念事業

として、史跡の整備も含まれている。

記念式典、行事、事業の主なもの、次の通りである。

△式典▽五月十五日神戸中央体育館にて。高松宮殿下港灣関係者、神戸市民五千人が参加。港灣功労者に記念品を賜る。そのあと、シアトル、ロッテルダム両港との姉妹港提携式がある。姉妹都市の両市長夫妻を招待する。

△記念事業▽神戸港史（Ⅰ・Ⅱ）、記念祭賛歌、記念碑建設、史跡整備、市章山の永久電飾、中央森林公園建設、御崎公園建設、貿易センター建設、記念映画製作、開港百年記念展覧会（五月十二日から十七日まで）。テーマは「神戸港百年の歩みと将来計画」。

△記念行事▽祝賀パレード海上花火大会、市民民踊大会、商店街対抗野球大会、記念植樹……etc。

★画期的な 光電導性粉末方式による 電子写真書法を開発

このほど、三菱重工、富士フイルム、甲南カメラ研究所の三社による共同研究の結果、世界で初めて、光電導性粉末式の電子写真書法を開発した。これは、画期的な方式で、すでに三〇数件の国内特許を出願したほか、米国をはじめ主要先進国約一〇ヶ国に対しては特許出願の準備をしている。

ピンク コーナー



相すまぬことながら、当方大病をいたしてより、お色気よりはもっぱら食い気の方が盛んとなり申して候。なにせ病院と申すところは、一食分の予算わずか三十円也とのこと、出てくるオカズはカボチャとチクワばかり。これじゃ、ビフテキの夢を見るのも当然の話と心得ます。いやいや、日本人だから、マグロのトロのころを分厚く切ったお刺し身で一杯やりたくなつても不思議ではございませんすまい。そんなことを考えていると、現実には牛肉とマグロとがケンカをしているような夢を見たよ。

あちらの詩人らしい男が、手で口をぬぐいながら戸口から出てきたと思ひなさい。そして、いうことにや「ああ、おいしかった。しばらくおいといた牛肉のように、口の中であんなに舌を味だつた」ところが「へえ、そんなものか。こちらにはお刺し身としか思えないが」とおっしゃるのが江戸の人たち。この勝負、どっちの「味覚」が正しいのか、それにいったい何の話かな。とにかく、牛肉にしろ、お刺し身にしろ古来キヌを「味覚によるあいさつ」とは、いみじくも申したものです。だが「意気なお刺し身、すり辛（いも）」をあつと出し」となると、これはホントに何の話でござるか。

これは、従来の電子写真
野書装置（略称 EPM II
Electro-Print marking）
が鉄板に光電導性の EPM
塗料を塗布する方式であっ
たものを、新方式では、酸
化亜鉛を主体とする光電導
性の微粉末を用いる方式と
したものである。

野書能力の向上、コスト
の大幅低減、プロセスの簡
略化などの特長をもつほか
最近、外国船に多く使用さ
れる特殊塗料に対しても、
何等の懸念なく使用でき
るという、きわめて画期的な
ものである。

新方式による小型試作機
はすでに、三菱重工の長崎
神戸の両造船所に設置され
好評。

★新制作協会賞受賞の石阪
春生作品展コトブキギャ
ラリーで開かる

昨年の秋、新制作協会賞
を受賞した石阪春生さんの
作品展が12月15日から31日
までの17日間、このほど新



作品の前に立つ石阪春生氏

装なった三宮阪急西口の寿
本舗二階のギャラリーで開
かれた。

「騎士の図表」と題され
た100号4点、デッサン2
点の計6点で受賞の対象に
なった作品ばかり。そのな
かの一点は雑誌「文芸」の
表紙を飾った。最近めざま
しい活躍ぶりをみせる石阪
氏は作風は、具象と抽象の
巧みなとけあいを見せてい
る。デザイン的なシャープ
な線の美しさと幻想的なや
わらかさが織り込まれた氏
の作品に熱心な神戸っ子フ
アンはギャラリーに絶え間
なかった。

なおこの「コトブキギャ
ラリー」は都市計画区画整
理による改築を機会に、寿
本舗社長が、若い画家の発
表の場として新設されたも
の。毎月15日を一期間とし
て、個展、作品展に利用さ
れることになっている。

また、コトブキギャラ
ーでは四十才以下の若手画
家を対象として、今年度よ
り、「寿賞」を設けた。年
間を通じて、優秀な作品を
発表した人を一名選び表彰
しようというもの。新人発
掘と同時に、神戸画壇に新
風を吹きこむ意味でも期待
されている。賞金は十万円。
★「きもの」

百年のあゆみ「展開かる
神戸開港百年をむかえる
初春にびつたり」の展示会、
明治、大正、昭和、きもの
百年のあゆみ「が、一月
四日より十八日まで、神戸
さくら百貨店4階にて、催
された。
近代日本の夜明けといわ

れた明治から百年。西欧文
明の影響をうけて、日本人
の生活様式も、大きく変化
この激動する社会史の中に
あって、日本のきものは、



後方・人力車に乗ったおはなはん

伝統の染と織をいかしなが
ら、新しい時代の美しさに
息づいて発展してきた。こ
の百年を変えんしてきた
「回想のきもの史」を新し
い技法により、正しく再現
しようというもので大手の
間屋とタイアップして、
さくら百貨店が企画したも
の。

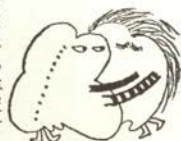
ガス灯や人力車などの小
道具もふんだんに使用され
ていて、日本情緒豊かな、
古きよき時代へのノスタル
ジアを、ちょっぴり感じさ
せる、小展ながら、楽しい
展示会だった。人力車に乗
ったおはなはんの姿に人気
が集中。

★愛鳥家の悲願みのり

「コウノトリ」発行さる
ほろびゆくものはみな美
しい。しかし、ほろびさせ
まいとする願いは、もっと
美しい。

このたび、元兵庫県知事
阪本勝氏の手によって、次
第に姿を消してゆくコウノ

ピンク
コーナー



ことはヒツジの年だそう
で。だが、スーパーマーケット
に参ると、お気の毒にニュ
ージーランド産のマートンだ
と、ラムだとかという羊の肉
が売られています。高い牛肉
のビンチ・ヒッターだとかで
急に脚光を浴びたものよう
です。

ところが、ラム（子羊の肉）
などは消化がよいので、ご婦
人の美容食にも最適という評
判です。元来、羊という文字
を見ても、「美」という文字
の重要部分を占めています。
ヒツジというあまりパツとし
ないケダモノが、どうして美
と結びついたのか、文字の研
究をやってもおもしろいに違
いありません。

昔から、羊の肉といえど強
精食メニューの有力な一員と
して知られていますし、その
名前にあやかった「淫羊」な
んとかという薬草は「いかり
草」として強精剤の最右翼に
ランクされています。

ヒツジさんを見直したねえ
ダテに紙を食っているわけじ
やなかったらいい。これじゃ
紙をいくら使われたって文句
はいえない。すると「そんな
ことで驚くな」とツノをふり
たてて飛び出してきたのが「
フイツクボツク」という雄山
羊さんだよ。ドイツでは、こ
れは「精力ゼッリン」のシン
ボルだそうで、ドイツ語の勇
壮な発音が実に直立不動！

トリの愛護保存の目的のために、「コウノトリ」が編さんされ、神戸新聞社より出版された。

遠い昔から日本に生きてきたコウノトリが、万一日本で絶滅するようことがあつてはならない。愛護保存のための世論をなお一層盛り上げていくためにも、コウノトリの過去現在を記録する本をつくり、後世に残しておくべきだと決意し、但馬コウノトリ保存会の同志の面々や、豊岡市在住のカメラマン、高井信雄氏の協力を得て、苦心に苦心を重ねて、ようやく出来上がったもの。

兵庫県但馬の豊岡市付近のコウノトリの生態や習性、人工飼育など観察記録や貴重な、美しい写真がたくさ

時計花



一〇〇年はやり

明治一〇〇年で幕をあけた昭和四十二年である元旦の新聞を飾ったのは明治一〇〇年と万国博と宇宙時代であつた、といつても中心になつたのは明治一〇〇年にちなんだ記事であり、復古調に拍

ん掲載されている。編集にたずさわつた方々の、絶滅の危機にさらされているコウノトリに対する、あたたかい愛情が、ひしひしと感じられる本。

●編著者、阪本勝。発行所神戸新聞社出版部。一〇〇〇部限定。定価二、五〇〇円

★みなとの子ら招いてクリスマスパーティー

神戸市生田区中山手にある中山手カトリック教会前のステラマリス海員センタ1で12月18日、同教会のロバート・シュメール神父らのグループが、みなとの子ら約50人を招いて善意のクリスマスパーティーを催した。招かれたのはロバート神父のグループが毎日曜日指導する日曜学校に通う三

車をかけることになつた神戸もまた一〇〇年ばやりである。兵庫県では、県政一〇〇年、神戸市では開港一〇〇年と賑やかなことであり、泰平ムードがいっぱいだ。

同じ復古調なれば文化も復古調がいい。それも本格的なもので、能楽堂の建設など意義が深い。開港一〇〇年が港都神戸の歴史には違いない。しかし、須磨・明石は源平の昔から由緒深い名勝の地・旧蹟も多い。日本芸能の源流といわれる能楽で代表作といわれる

才から高校生までのこどもたち。神父のお話を聞いたあとこどもたちは食卓を囲んでココアとホットドッグの楽しい食事、デザートにシャーベットに大はしやぎ



サンタのおじさんからプレゼントをもらうこどもたち

だった。食事のあと奇術やゲームを楽しみ、在住外人ふんするサンタのおじいさんか山のようなおみやげをプレゼントされて楽しい一日をすごした。

松風も須磨が舞台である地方都市でもどどん能楽堂も建設されている。神戸に本格的な能楽堂が欲しいところである。一〇〇年ばやり、復古調で、大宅壮一がサンデー毎日（一月十五日号）で戦後コースの明治的修正と大いに警鐘を鳴らしている、実際、マスコミが一〇〇年ばやりの記事や読物で埋まってしまうても一向面白くない、これもやはり本格的な報道と勇氣ある批判を期待したい。

(Y)

■百店会だより■

★元町通一丁目の元町パザールでは慣例の全店初春三〇〇円セールを今年も、二月五日から十日まで催します。恒例のこの催しも今年きりです。どうか最後のチャンスをお見逃しなさい。

また東京日本橋の白木屋一階に元町パザールの新しいお店が、三月一日よりオープンします。同じく白木屋一階に、神戸シャッポも新装開店致しますので、どうぞよろしく。

★呉服の「ちんがら屋」では、少し趣向をこらした和服の展示会「珍趣会」を、二月一日と二日の二日間、オリエンタルホテル二階ホールにて開きます。普段とはちがった珍しい、趣き変わった着物などが、たくさん紹介展示されますので、どうぞご期待下さい。

★田崎真珠では、十二月十五、十六、十七日の三日間、大阪ロイヤルホテル、二階ダイヤモンドルームにて、「ロイヤル真珠」を開催致しました。これは、東京日生劇場で催されたステージ・ショー「67ルリ・オチアイコレクション」と真珠のバリエーションの関西の方々への紹介を兼ねたもので、奥ゆかし、優雅なパールの新作品の数々が次々と発表されました。年に一度の「パール二割引のネットレス」も、お買得品コーナーも設けられ、外の景色とは打って違って、春のムードがいっぱいのすばらしい展示と即売会でした。

★さんちかタウンのムタタでは、名古屋、東京、福岡、京都の四会場にて、「ニューイヤールコレクション」を開催致します。一月二十七、二十八日に名古屋・マイホテル、一月三十、三十一日に東京・プリンスホテル、二月四、五日に福岡、二月十五日に京都で開催予定です。舶来高級婦人服の最新モデル、毛皮のバーゲンセール、真珠の新作発表など多彩な展示会になる模様です。

Sugiya

*ランジェリー
*ブラウス
*セーター
*ガウン

チャーミングな
あなたの

Sugiya

TEL <33> 3 4 3-6
トア・ロード市電大丸電停前

春です
軽快なクロスの靴を
どうぞ



今春のモード

ラ・フローレット

★★★★★
靴と舶来雑貨
★★★★★

クロス

舶来雑貨 神戸トア・ロード TEL ③0998

婦人靴 三宮地下街(さんちかレディスタウン)

大阪阪神百貨店 TEL 361-1201

京都丸物百貨店 TEL ⑤1111

★神戸の集いから
たかはし・もうさんを励ます会



神戸新聞「笑点」の政治漫画でおなじみの筆者たかはしもうさんの連載10周年を記念した「たかはしもうを励ます会」が12月17日、神戸オリエンタルホテル一階の間で盛大におこなわれた。この10年間黙々と政治漫画を描きつづけてきたもうさんとその一家をねぎらおうと神戸新聞社員、関西漫画協会、文化人など参加者は百数十人をかぞえた。軽妙な竹田洋太郎さんの司会ではじまった会は畑専一郎さんによるもうさんの略歴紹介、足立巻一さんのあいさつのあと、この会の副題である「たかはしもうをいじめる会」に移り、もうさん一家の紹介、インタビュヤもうさん自作のスライド映写、漫画人による似顔絵を披露、海の女王の田村美知子さんの花束贈呈など終始なごやかな記念パーティーだった。当日の主な参加者は春山正、河村立司、佐々木侑二、陳舜臣、赤根和生、津高一、新谷秀雄、織田正吉、貝原六一、畑専一郎、春木一夫、福永道子、伊藤誠、木村憲吾、杜山悠、寺尾竹雄、中西美代子各氏等、もうさんの広範囲な交際がみられる顔ぶれだった。

誕生日
ありがとう
運動



この「誕生日ありがとう運動」も、活動開始以来、全国各地のボランティアの人たちの熱心な活躍やあたたかい奉仕、献身的な協力によって、一歩一歩着実に前進してきました。いよいよ本年五月には、運動二周年を迎えることになりました。運動本部では、この運動をより一層計画的組織的に推し進め、飛躍発展させていくために、五月の記念行事を頂点として、九月の精進者愛護月間行事など、さまざまなスケジュールを計画しています。

年に一度めぐってくる誕生日—私たちは日頃何気なく迎えています。今日まで心身ともに健やかに育てられたことの恩恵や自分の誕生の意義について考えてみるのも意味のあることです。私たちの健康に感謝すると同時に生まれながらに恵まれぬ日を送っている数多くの精神薄弱児(者)の問題について正しい理解を深め、あたたかい援助の手をさし伸べよう、そのため、誕生日のお祝いの費用の中から、わずかつつも節約し、献金しようというのが、この「誕生日ありがとう運動」のはじまりでした。

献金や寄付も、多方面の人々の理解と協力を得て、今では(十二月二十四日現在)九、三〇七件寄せられ、総額一百六十九万二千四百五十円集まっています。献金の使途については、アンケートの回答の統計に基づいて、目下運営委員会が検討中ですが、たとえば①施設への援助、②運動資金として、③施設の創設、④職員の援助……などの建設的な方面に用いられます。

特に、一、二月は「友の会」結成月間です。精進問題に関心のある方、運動に協力していただける方は、左記へ御連絡下さい。資料をお送りします。

誕生日ありがとう運動本部
神戸市長田区前原町一の一
神戸市立室内小学校内



異人館物語



連載第五話

1

耽溺の詩人モラエス

小山牧子 え・石阪春生



△1▽

明治四十三年七月七日の夜、神戸駐在ポルトガル総領事ウエンセラオ・デ・ソーザ・モラエスは、近年まれに見る上機嫌な顔をかがやかせ人びとにかこまれていた

それもそのはずである。十幾年ぶりにモラエスの祖国ポルトガルの軍艦が神戸の港に錨をおろしたのである。軍艦は、巡洋艦サン・ガブリエル号で、世界一周の途上立寄ったのであった。

つねづね、ポルトガルの海軍が衰微してゆくのをうれえていたモラエスのその日の張切りようは大変なものであった。

長身のからだを日本の礼服である紋付の羽織とはかまで包み、はるばると祖国からやってきた客人、サン・ガブリエル号の乗組員の全員を、神戸一番の料亭である常盤花壇に招待した。

赤毛碧眼でいかついからだつきのモラエスが、日本の紋服を着ている様子は見るからに珍妙なものであった。しかし、日本人の生活と文化をこの上なく愛し、それにとけ込むことを熱望していた彼は、祖国の仲間たちを、日本の礼服でもてなすことに得意の鼻をうごめかせていたのだった。

実際、今夜のように楽しい夜はそうたびたび訪ずれそうにもない。小さな盃で酌みかわす酒の酔いが、ゆっくりと体内をめぐり、モラエスのただでさえも激情的な血をいっそうかきたてるようである。そして彼は、何度も立ちあがり、彼の周囲に居並ぶ褐色に日焼けた筋肉たくましいポルトガルの海の男たちに語りかけた。

「諸君、僕等の祖先は勇敢だった。インド航路を発見し七つの海を征服したのは、僕等の祖先ルジタニアの海軍だった。そして、この日本の国にはじめて鉄砲を伝えたのも僕等の祖先だ……」

モラエスは、熱っぽいまなざしを周囲に居並ぶ人びとに送り、更に言葉が続けようとした。

しかし、次の一瞬、モラエスは、海の男たちがだれ一人モラエスの熱っぽいスピーチを聞いていないことを知った。そして、ふくらみ切っていた気持が急になえてゆくむなしさを感じた。

モラエスもかつては海軍士官であった。その彼のかつての仲間たちはいま、モラエスのスピーチなど耳に入らぬほどに、この異国で過ごす一夜の逸楽に酔い痴れていた。

花限の一流芸者を総あげしたかたちになった座敷は、

一面に華美な色彩の花を投げちらしたようであった。

男たちは、彼等の前に優美な物腰で坐って酒を注ぎ、いつも相手の心に抱いている望みを正確にくみ取りながら、羚羊のように他人の瞳をさけるしとやかな栗色の目を持つ日本の女を、驚きの目をみはり追いつづけた。

つややかな黒い髪を複雑な形に結びあげ、からだ中が一部のすきもなくびったりと華やかな色彩の絹の着物に包まれているゆえに、手首と襟足の白さだけが浮きあがり、この上なくまめいて見え、その場所から女体への思慕が無限に広がってゆくように男たちには思えるのだった。

やがて居並んだ妓たちが一斉に三味を奏ではじめた。座敷一杯にさえずりと響きわたる三味の音に合わせて、梅奴の舞踊がはじまったのである。

曲は草刈であった。男たちのとけてゆきそうに碧い酔眼が、ふたたび輝きをとれどもどし、この神戸随一の名妓梅奴の身ぶりに集まった。

部屋の中の熱気にたえきれなくなったモラエスは、かつての仲間たちの一様に満ちたりて見える酔顔から目をそらし、ふらりと立上り縁先に出た。

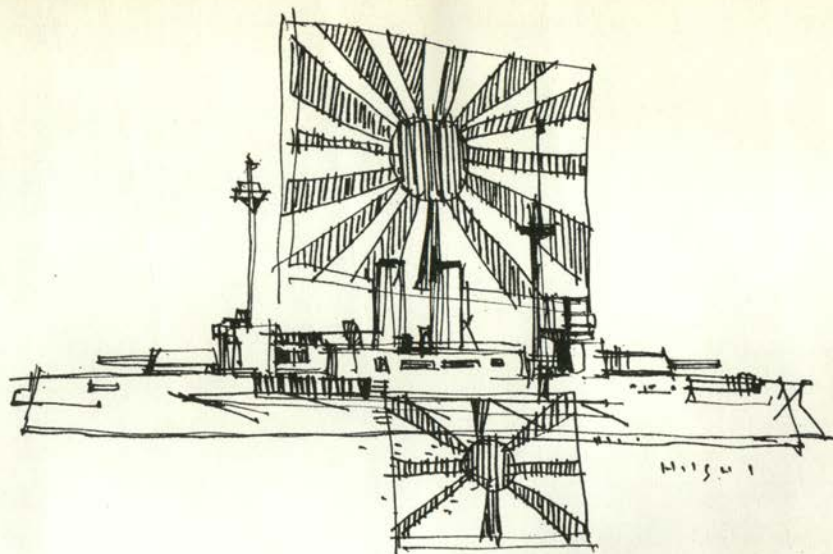
そこには見事に手入れされた常盤花壇の庭園が広がっている。そこ、ここに盛上った築山のかげでは、朱塗りのぼんぼりが鈍い光を放ち、泉水にかけられた小さな橋も石灯籠も、そして奇妙な形にくねくねと身をよじらせた松の古木も、モラエスにはすべてこの上なく意味深い配置でそこにあるように思えるのだった。

庭全体は、七月十日前の弱々しい半月の光りに照らされてきた。そしてあるかないかの微風が頬にのぼった酔いを散らしてゆくのを、モラエスは心持よいものに感じた。

やがて、モラエスの唇はゆっくりと動き、何度目かの同じ言葉をつぶやいた。

「よかった。本当によかった」

白くさざなみ立った人工泉水の水面に目を注ぎながら



モラエスの心は十年ほども前からの鬱積した心がわずか
づつ癒やされてゆくを感じた。

「それにしても、あの時は淋しかったな——」

モラエスは、ふたたびつぶやいた。

あの時——。それは明治三十六年と四十一年の二度、
神戸沖合で行われた観艦式の思い出であった。

明治三十六年の観艦式には、モラエスの大好きな明治
天皇が御召艦「浅間」に御乗船、整然と並ぶ六十四隻の
日本艦隊の正面を、「都」と「千早」の護衛艦、巡洋艦
「金剛」、駆逐艦「夕霧」、輸送船「呉丸」を従えて、
堂々と波を切って進んだものであった。
そして、このはれやかな日本の儀式に花をそえるため
に、世界の列強は、こぞって極東海域にある彼等の優秀
艦を日本海軍の観艦式に参列させた。

儀式を前にして、ポルトガル領事としてのモラエスの
気持もまた浮きたった。

彼は本国政府とその出先機関であるマカオ政庁に、ポ
ルトガルからもこの極東の新興国日本の観艦式に花をそ
えるために軍艦を一隻参列させるよう打電した。

しかし、本国政府もマカオ政庁もモラエスの要請に耳
をかそうとはしなかった。

耳をかそうにも、ポルトガルは、極東海域にそういつた
儀式にふさわしい見栄えのする軍艦など一隻も置いてい
なかったのだ。

その日は、各国の領事たちもお召艦「浅間」に招かれ
ミカドの客人として陪食をたまわった。

君が代の調べが、波静かな秋の海面におごそかな余音
を響かせ、ミカドの英姿は威風あたりを払っていた。

モラエスは、堂々と波をけって進む六十四隻の日本艦
の後に従う外国軍艦に目を注いだ。

イギリス戦艦「グロリアー」巡洋艦「ブレンハイム」
フランス巡洋艦「パスカル」、ドイツ巡洋艦「ハンサ」
ロシア巡洋艦「アスコット」、などなど……。どの軍艦
の一つも彼等が属している祖国の国威に胸を張っている

ようにモラエスには思えた。

そしてモラエスの祖国ポルトガルは、すでにかつて世界を征服した時代の記憶を古い勲章のようにぶら下げて衰退してゆく老人国であると思えるのだった。

予備役に編入されているとはいえ、ポルトガル海軍中佐の肩書を持つモラエスは、極東の一新興国日本の国威をまのあたりにして、この上なく肩身がせまく淋しかった。

——なぜ軍艦の一隻ぐらいよこさないのだ——

モラエスの淋しさは、祖国ポルトガルのふがいなさへの怒りとも悲しみともつかぬ感情に変わっていった。

その日、帰宅したモラエスは遅くまで書斎にこもり、昼間の観艦式の式典の模様を熱っぽい感激をこめて書き綴った。極東の小さな島国日本でさえもこんなに堂々としているのだ。かつて七つの海を征服した海軍国、ポルトガルの同胞よ。目を覚まして立あがってくれ！

祈りにも似た気持をこめて、モラエスは書き綴ったのだった。

しかし、この十年……。本国では十指に数えられている作家であるモラエスの美しい文章に鞭うたれても、ポルトガルの国威の衰退は、手のほどこし方がなかった。

果てしなく続く内乱。革命とクーデターのくり返し。祖国に愛想をつかしたモラエスは領事の仕事にも熱が入らず、ここ四、五年は、ただただ日本についての著述に専念し、日本人の愛妾ヨネとの生活に溺れて暮らしていたのだった。「しかし、今夜はよかった。本当によかった」モラエスは港に碇泊しているサン・ガブリエル号の雄姿を思い描き、つぶやいた。そして、背後の座敷へ視線をもどした。

宴席はすでに梅奴の踊りを終り、おひらきの前のだらけた雰囲気になっていた。

やがて、言葉のわかり合えぬ客と、妓たち

の間にひろがるだらけた雰囲気、最後の最後を締めるために、

したり顔の老妓の発案で、艦長のビント・ハウスを二十人余りの芸妓が総立ちになり、胴上げすることになった。

「妓たちは黄色い叫びをあげ、やわらかい絹の着物におおわれた手をしっかりと握り合い、ビント・ハウスのからだを宙に放ろうとした。しかし、ビント・ハウスの巨軀は、そう簡単にはねあがることがなく、彼はキョトンとした顔で、妓たちの肉ずききよいやわらかい腕の中でもまれていただけであった。」

「万才ノバ・ン・ザ・ア・イノ」

妓たちは息をはずませて叫んだ。

「アリガト。ミナシャン、アリガト……」

モラエスの頬に、久しぶりに無邪気な笑い、ひろがっていった。そして、感謝の言葉をふりまきながら、進んで妓たちの輪の中に入り、ビント・ハウスの胴あげを手伝うのだった。

△つづく▽

●年間購読／二四〇〇円半年／一二〇〇円月刊神戸っ子の姉妹誌です
●編集室／大阪市北区西寺町2ノ8ニュー八千代ビル 振替大阪四五〇八三

表紙———小磯良平

特集★現代の冒険

①座談会・探険家よ増えろ、

梅棹忠夫・木村重信・飯島茂

②三ツの探険取材メモ 藤木高嶺

③若いんだから何でもやってやろう、

海外旅行のすすめ＝高村健

④エグゼクティブこそ冒険である 企業のなかの冒険について

創作＝性のマリオネット＝船知慧

鴨居羊子の恋愛問答 ゲスト＝沢田隆治
てなもんや恋愛論

関西女人伝／大山昭子★足立巻一

ぎゃんぐ・ぼえっと ★曾根崎新地本通り

石浜恒夫

グラビア新連載★ヨーロッパの女
・大山洋治

オール関西 2月号

（¥190）

★新しい日本を創造する総合雑誌―書店にて発売



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを！

三恵洋服店

元町4丁目 TEL ㉓ 7290



世界の品々は
サノへでお選
びください。



元町2丁目
㉓ 4707~8



Mr. Kent
came to Kobe
流行に左右されない
本来のオシャレ
それがKentです
シックな
スコッチ風の店舗
それがFunakiyaです

オシャレ洋品の店

フナキヤ

元町3 TEL <㉓> 3617



紳士洋品の店

千利庵

元町4 TEL ㉓ 6959



オード・コーカス-C

オード・コーカス-

KOBEの街と

ともに40年—

ユニークな香りの

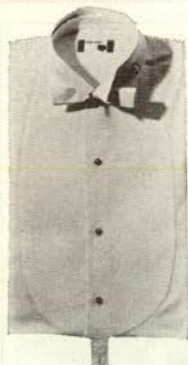
高級ヘヤートニックです

三星堂

発売元 / 神戸

TEL 大代表23-4341

高級紳士服
山名洋服店
神戸三宮生田筋 ㊿5797



よろず物 縫衣縫上處

神戸シャツ

大丸前 TEL ㊿2168

創業明治二十八年

履物の山下

古い老舗に新しいセンス

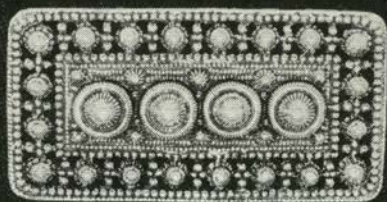
神戸 三宮センター街

TEL ㊿0256

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

FASHION
ACCESSORY



三宮センター街 ☎4895

A
K
I
R
A

創作ハンドバッグ
工芸品 ORIGINAL

神戸 ■ 元町

ACCESSORIES

イクシマヤ

TEL. (33) 2415・2416

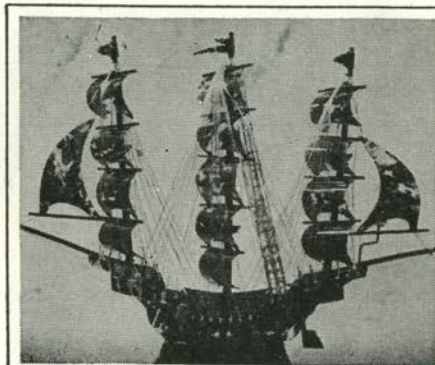
ユニークなシャンプーとカット

阪神美容室

経営・河田つるゑ

大丸前 ☎6264

元町阪神地階 ☎5592



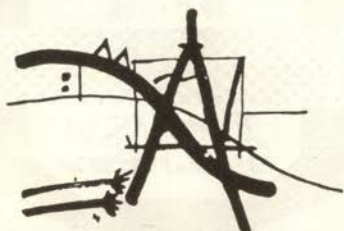
センスあふれる

べっ甲専門店

太田 鼈甲店

元町1丁目 TEL ☎6195

額縁絵画・洋画材料
室内工芸品



額 製 積 末

三宮・大丸北
トア・ロード
☎1309・6234



ちかづく
たのしい
ひなまつり

カメヤ

楽しいおもちゃの店

さんちかタウン
三宮センター街
元町通一丁目
元町通三丁目
☎〇〇九〇
☎〇七六八
☎四九六九
☎四〇四五

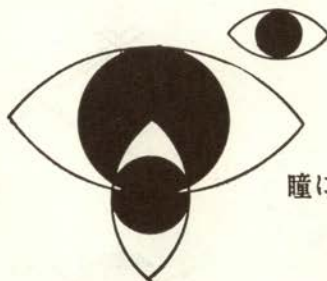
高級きものとおび
しみぬき・活洗専門店



平野

つるや本店

兵庫区神田町125
(家庭裁判所前東1丁)
TEL ☎6932



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葦合区御幸通八丁目九ノ一 (三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL (22) 8161・8361

コベ三宮
ムサシ
でんわ 三三七七
三〇八

やっぱりうまい
むさしのとんかつ

のれんが育てた
神戸の味

瓦せんべい
クリームパピヨン

龜の井龜井堂本家

神戸三宮トーアロード
本店 33-0001
電話 南店 33-1616



おすし
てんぷら

栄 彌



営業時間

A. M. 11.30~P. M. 9

本店 三宮町二・朝日会館前
TEL 5772
支店 さんちか味ののれん街
TEL 395233
(毎週月曜日休み)



ご贈答に風味豊かなカステラ
長崎堂本店

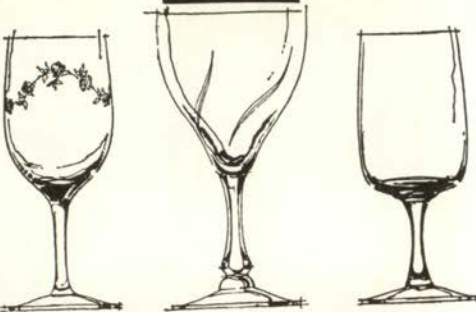
本店=大橋町5大五ビル (61) 0553-4
新開地店=松竹座前 (56) 2423
元町店=元町6 (34) 4130
さんちかスイーツタウン (36) 3625

SNACK BAR
マゼラン



生田区加納町4丁目 TEL 39-2366

CLUB
落



清水よし子

生田区下山手通2丁目TEL(39)1515

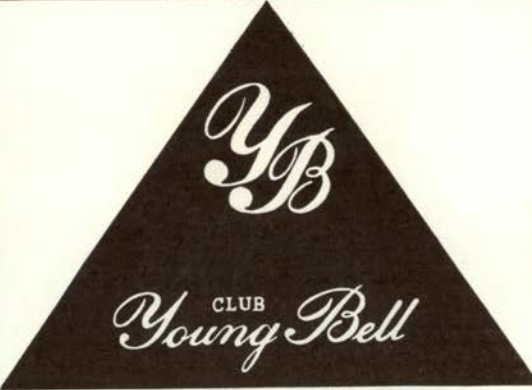


洋酒の店 キャンテイ

Chianti*

榊 晴夫 TEL(39)3060

213KITANAGASA-DORI IKUTA-KU KOBE



CLUB
Young Bell

松田 真理子

生田・中山手2丁目89・TEL 33-3052